

→根本はお互い（他職種）のことを十分理解していないという認識で連携すること

在宅



入院



在宅

①入院時の情報提供

①適切か？

病院：どちらでもない33% そう思わない23%

病院以外：どちらでもない39% そう思わない12%

→病院側はそう思わない割合が高い

②退院時の情報提供

②適切か？

病院：そう思う61% どちらでもない29%

病院以外：そう思う33% どちらでもない50%

→病院はそう思う割合高く、病院以外は低い

リハネット内でも同様の課題があったため、いくつか取り組みを実施

認識のズレがあり、お互い必要としている情報が何かの議論ができていない

→7年ほど前に退院時のサマリーのフォーマットを統一（必要な情報）

→急性期・回復期・生活期まで合わせた事例検討を実施

→どのような目標で退院支援したか、どのように生活しているか共有し互いの理解を深めた

→経験がないとわからない 施設間交流を実施

※お互いの考えに触れて一緒に考えることで、相互理解が深まった

リハの強み：

身体機能の評価に基づく予後予測
自立支援の視点での思考

リハの弱み：

実生活が見ていない
介護者の立場で考えにくい

ケアマネの強み：

本人家族の思いに寄り添う
生活を知っている

互いの強みをかけ
合わせて連携強化



部会間で共同して考える機会を増やす